

## 「湘南の七福神めぐり」②鎌倉・江の島七福神 解説

池内・今井・小林・弥勒寺・渡辺・弥勒寺

「鎌倉・江の島七福神めぐり」第二回は、出発地点を JR 大船駅東口広場（湘南モノレール横）としました。歩道橋を南に降りて、県道 301 号線（バス通り）を東へ 20 分程、鎌倉街道（県道 21 号線）にぶつかるまで歩きます。小坂小学校前信号を右折し、横須賀線の踏切を越えてすぐ、T 字路の小袋谷信号を左折します。ここから風致地区に入ります、道が狭く歩道が路側帯になっていますから白線の中を一列で歩いて下さい。

北鎌倉駅前を通り、円覚寺白鷺池前の駐車場にトイレがありますから、給水をかねて一呼吸入れましょう。円覚寺は明治 20 年横須賀線開設工事のため白鷺池がお寺と分断されてしまった。横須賀線は陸海軍へ物資・兵員を輸送するために敷かれたもの。

やがて東慶寺の山門が見えて来る。ご存じ江戸時代の駆け込み寺である。関東地方には江戸幕府黙認の駆け込み寺が二つあった。一つは群馬県（上野の国）の太田市にある満徳寺と、ここ東慶寺である。離縁したければ、この寺に駆け込むと離婚は成立した。夫の側から、妻の側からも離縁状が書かれた。なぜ三行半（みくだりはん）なのだろうか。奈良時代、律令に定められた“棄妻”の際に用いられた書状「七出之状」（しちゅうのじょう）の“七”の半分だから、とする説がある。

浄智寺の案内板が見えて来る。鎌倉五山第四位の「**浄智寺**」（**布袋尊**）は、鎌倉街道から 20m 程奥まった所に在る。小さな放生池に小さな石橋が跨ぎ、すっかり擦り減った鎌倉石を踏んで、拝観料金所の前に入る。布袋尊は境内の中にあり、拝観料が必要となります。浄智寺一帯は北条氏の所領であったので禅宗が多い。かつては塔頭 11 院もあったと伝える。

浄智寺を過ぎ、横須賀線の踏切を越え、緩やかに坂を上ってゆくと、鎌倉五山第一位の建長寺門前に入る、臨済宗建長寺派の大本山で、鎌倉を代表する寺院の一つ。

鎌倉へ入る七切通の一つ巨福呂坂（こぶくろさか）（小袋坂切通とも言う）を通り抜けると「**鶴ヶ岡八幡宮**」（**弁財天**）の車お祓い所前に入るから、ここから境内に入ってゆく。この項では八幡宮の解説は省略させて頂くが、康平 6 年（1063）京都から八幡神の分霊を由比ガ浜の近く、鶴岡にお祀りしたのが始まり、今の社殿は文政 11 年（1828）の再建。

流鏝馬道を通り抜け、横浜国大付属鎌倉小中学校前を左手に見て、学校の南角を右に曲がると小町大路に出る。交差点脇が「**宝戒寺**」（**毘沙門天**）の門前となる。宝戒寺は北条氏ゆかりの寺で北条泰時の屋敷跡、のちに北条高時が住み、元弘 3 年（1333 年）新田義貞、足利尊氏の鎌倉攻めで一族が滅亡する。宝戒寺は北条一族慰霊の為、後醍醐天皇の勅願で、足利尊氏が建てた天台宗のお寺である。今では“萩”のお寺として有名。また萩にかこつけて、最近はおはぎが名物となっている。

南へ歩を進めて直ぐ「**妙隆寺**」（**寿老人**）入口に南無妙法蓮華経と深く刻まれた“髭題目”が目飛び込んで来る。至徳 2 年（1385）千葉胤貞が開基、日英を開山として創建。本尊は釈迦牟尼仏。寿老人は本堂に向かう参道の傍ら、小さな厨子の中に納まっている。

さらに小町大路を南下する。妙隆寺からすぐ先の左手に、「日蓮上人辻説法跡」の案内板が見えて来る。当時鎌倉は天災や病害が多く、不安定な世相を招いたのは、それまでの仏教が悪いのだと、日蓮は他宗を批判した。幕府は黙認できず江の島龍口寺で斬首しようとしたが、突如雷鳴轟き稲妻が走り斬首かなわず、佐渡へ流罪とした。

説明板を横目に見て5分、滑川が会う角に大きな山門（仁王門）が威容を誇る（江戸時代の建築）、**「本覚寺」**（**恵比寿**）に到着。ここは日蓮宗のお寺で、身延山久遠寺にある日蓮の遺骨を分骨して本堂に収めた。身延山へ参詣できない人の為に分骨して参拝させた。故に本覚寺は「東身延」と呼ばれる。本尊は釈迦牟尼仏。恵比須様は山門入口右手大きな夷堂（えびすどう）に収まっている。

境内を潜り抜けて路地を左手に行くと若宮大路に突き当たります。スルガ銀行まえ、ここがショートコースのゴールとなります。信号で若宮大路を渡ると、商店街を抜けて鎌倉駅に到着。

ロングコースは若宮大路を南へ、横須賀線を潜ると「下馬」の交差点に出る。右折して今度は西へ長谷観音に向かう大町大路を歩く。この道は昔の東海道で、日本武尊は箱根を越えて海老名に出て、藤沢から江の島経由この道を通り、横須賀の走水から海を渡り、千葉に上陸した。この道の突き当りに**「長谷観音」**（**大黒天**）が鎮座している。寺伝によると、元正天皇の頃（養老年間717）大和長谷寺徳道上人が、楠で二体の十一面観音を刻み、その一つを海に流したところ、16年後三浦半島の長井に着き、ここに安置したと伝える。寺名も大和長谷寺の名を借り、新長谷寺とした。木造り十一面観音像は高さ8mを越える楠で日本一の大きさを誇る。

長谷寺の敷地に沿い、案内板に従って歩いて行くとすぐ**「御霊神社」**（**福祿寿**）に到着。一転こんもり繁った社に囲まれて、厳かな社が霊域を感じる。福祿寿は境内の夷堂に収まる。

桓武平氏の大庭氏、梶原、長尾、村岡、鎌倉の五氏を祀った霊廟を御霊社と呼び、御霊（ごりょう）となった。ここは鎌倉権五郎景昌を祭神として祀る。

ウォークコースは境内を通り抜け、細い路地を行くと、江ノ電長谷駅から来る極楽寺坂の道に出会う。老舗の和菓子屋さんの角には“はせかんのんみち”と太く刻まれた道標が建つ。角を右折しゆるやかに坂を上ってゆく道は、鎌倉七切通の一つ「極楽寺坂の切通」である。昔は森が深く井戸を覗くと、井戸の底に☆が見えたと伝える（史跡として傍らに星月の井戸あり）遙か上を見上げると成就院（お寺）の躰が見える、鎌倉時代はここが坂の頂上近くであったと云う、近世車馬が通れるように勾配を緩やかにした。

極楽寺坂の頂上を過ぎると、極楽寺の鄙びた総門が見えて来る。もとは北条重時の屋敷跡、昔は49院もの塔頭が立ち並んでいたと伝える。隣の江ノ電極楽寺駅には休憩場所とトイレが完備されているから、腰を下ろして一呼吸入れたい、近くにはラーメン屋さんもある。

極楽寺坂を一気に下る。昔からの細い道であるから、車の往来に注意してください。やがて空が明るくなり、潮風が匂うようになると、稲村ヶ崎が見え、キラキラ輝く湘南の海が広がる。稲村ヶ崎の公園に到着です。素敵な景観がウォーカー達を迎えてくれる。ゆっくり休んで英気を養いましょう。一呼吸入れたら国道134号線をひたすら西へ、江ノ電を見ながら歩くのは楽しいが、自動車の排気ガスと喧騒にはうんざり。七里ヶ浜駅、鎌倉高校前駅を通過。おなじみの江ノ電と湘南の海撮影スポットは、外国人が大勢撮影を楽しんでいた。

小動岬を回り込むように通過、小動岬は江戸時代海防の見張り所があった所、今は小動神社が建つ。腰越漁港を過ぎると、片瀬東浜に入り、やがて江の島弁天橋に到着する。橋の袂がロングコースのゴールとなります。**「江島神社」**（**弁財天**）への参拝は自由と致します、弁財天のお参りは既に鶴ヶ岡八幡宮の旗揚げ弁財天（源平池の中島）をお参りしているから、省略出来るだろう。小田急片瀬江ノ島駅へは、国道をガードで潜り、交番の前に立てば新装なった竜宮城の建物が駅である。

完